

APHS2025 参加報告

今村清隆 （四谷メディカルキューブ きずの小さな手術センター）

今回、APHS奨学制度に応募させていただきました。同じ奨学金を過去に2回いただいているため、本来であれば若い先生方に機会を譲るべきではないかとも考えました。しかし、今回は開催地がインドということもあり、日本からの参加が例年より少ないように感じました。そのため、一参加者として現地の様子を伝える役割を担えればと思い、応募いたしました。

デリーは去年のYoung HISCONで初めて訪れ、今回は2回目の訪問となりました。これまでにムンバイやチェンナイでの学会にも参加した経験があり、インドでの学会運営や雰囲気にはある程度親しみがありません。常に熱気があり、驚きに満ちたインドは好き嫌いが分かれるかもしれませんが、私自身はとても好きです。

2024年3月のYoung HISCON 2024の際にライブ手術を経験させていただ

いた Sir Ganga Ram Hospitalで、9月18日に腹壁再建に関するワークショップが開催され、参加いたしました。

ワークショップでは講義に加え、複数のライブ手術が並列で行われ、FasciotensやPeritoneal flap repairなど、これまで見たことのない術式を学ぶことができました。前回友達になったAnomlが私のことを覚えていてくれ、急遽司会に抜擢してくれました。

19日・20日の総会では、スペインのProf. Miguel Angel Garcia-Urenaの発表が非常に印象的でした。豊富な解剖学的知識をもとに新たな手術を提案されており、その姿勢に深く感銘を受けました。

アジア各国からの友人と親交を深めることもでき、あっという間の3日間でしたが、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、日本から参加されていた先生方にお声かけし、有志で学会の雰囲気伝える動画を作成しました。次回インドで学会が開催される際には、より多くの日本の先生方にも積極的に参加していただければと思います。